



友好協定締結の様子。左から中田節也日本ジオパーク委員会副委員長、宮下宗一郎むつ市長、張振乾台湾交通部観光局処長、楊景謙總經理



下北ジオパークと野柳地質公園(台湾) 友好協定締結



- 11月1日は、協定締結を前に台湾の関係者たちが下北ジオパークを視察。
- むつ市長が昨年12月に台湾野柳地質公園を訪問。
- 野柳地質公園では、相互の情報や意見を交換し、国際的連携を図った。

**国際的連携が
下北ジオパークを強くする**

むつ市は、11月1日に台湾のジオパークである野柳地質公園と友好ジオパーク協定を締結しました。この締結は、昨年から両ジオパークの交流が実を結んだもので、今後お互いのジオパークの更なる成長につながることを期待されます。

野柳地質公園は、台湾北部にあり、クイーンズヘッドなどの奇岩を有する年間300万人の観光客が訪れる名所です。相互の交流を今後さらに深めることにより、下北ジオパークとして国際貢献をはじめ、全世界に向けた情報発信を強化し、日本の中の下北から世界の

また、世界的な知名度を誇る野柳地質公園との情報交換により、学術面やその取組みにおいても下北ジオパークの今後の課題解決に役立つものと思われまます。

協定締結式には、野柳地質公園を管理する新空間国際株式会社のほか、台湾政府の関係者や日本ジオパーク委員会の中田節也副委員長に出席していただき、宮下市長は、「下北と野柳が世界に羽ばたく記念すべき日。野柳地質公園から多くのことを学ばせていただきました」と、喜びを表しました。

コラム

むつ総合病院に地域包括ケア病棟開設



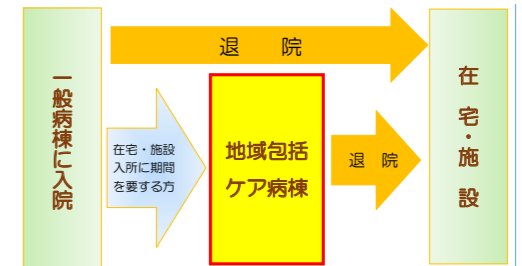
上：11月1日の病棟開設除幕式の様子
下：看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーの私たちが担当します

住み慣れた地域で生活し続けるために

むつ総合病院では11月1日、2階病棟に地域包括ケア病棟を開設しました。

少子高齢化に伴い、慢性疾患への対応や一人暮らし高齢者の増加など、地域医療を取りまく環境や病院の果たすべき役割が変化してきています。そのため、これまでの病気を治すことを主眼とした急性期医療に加えて、病気がとうまき付き合っているが、住み慣れた地域で生活し続けられるようなケアするための充実などが求められています。

一般病棟に入院され、症状が落ち着いてきている患者のみなさんには、地域包括ケア病棟に移っていただき、在宅復帰や介護施設への退院に向けて、主治医をはじめ看護師、専従の理学療法士、医療ソーシャルワーカー等が協力しながら、地域に帰るお手伝いをするということしております。



むつ総合病院 市民公開講座のお知らせ

どなたでもご参加いただけます。
お気軽にお越しください。

市民公開講座

テーマ：心臓病と脳卒中を
防ぐために

日時：平成29年12月3日(日) 10時30分～12時00分
ところ：むつ市立図書館内 視聴覚ホール

講師紹介
弘前大学造形芸術学内科学講座
教授 富田 泰史 氏

1960年 青森県弘前市生まれ
1982年 東北大学工学部 卒業
1986年 北里大学医学部 卒業
2007年 東京一工科大学大学院修士課程
2011年 弘前大学造形芸術学内科学 講師
2015年 北里大学造形芸術学内科学 准教授
2017年3月 弘前大学造形芸術学内科学 教授

どなたでもご参加いただけます
お申し込みは不要です

主催：むつ総合病院
後援：むつ市

杉山 聖子

地域包括ケア病棟
看護師長



当院にも、急性期治療後の在宅復帰に向けた地域包括ケア病棟が開設されました。患者さん・ご家族が安心して、在宅・施設等に復帰できますようにスタッフ一同サポートさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

むつ総合病院 橋爪 正 院長



むつ総合病院は、急性期病院として運用されてきましたが、むつ下北圏域において、高齢化の進行とそれに伴う疾病構造の変化、単身世帯の増加など、患者さんだけでなく、社会の変化も急速に進んでいます。

一人一人の患者さんのニーズをきめ細かく満たしてゆくためには、いっそうの病院機能の多様化が求められているのです。この度の地域包括ケア病棟は、その要求に答える為に開設されました。地域の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



鳥山健太郎 社会福祉士
工藤源輝 社会福祉士
堀江聖子 社会福祉士